

て、眞言宗に属した。丹羽長重が僧覺視をして愛宕堂を建て、城の鬼門を鎮護せしめたに起り、慶長九年前田利長之を再興し、十五年には利家の女にして前田對馬長種の室であつた幸姫、承應二年には前田利常が並びに修營を加へた。世に之を小松愛宕といふたが、今廢滅して存せぬ。

ヨウフクジ 養福寺 鳳至郡深見に在つて、眞宗東派に属する。

ヨウフクジ 永福寺 ↓エイフクジ 永福寺。

ヨウベヤ 用部屋 ↓ゴウベヤ 御用部屋。

ヨウホウジ 養法寺 河北郡談議所に在る。初め同郡大熊に在つて、永正九年道賢の創立といひ、眞宗東派に属したが、延寶中西派に歸し、同時に今の所に移つた。後その廢頽してゐたのを、羽咋郡菅原の明事寺から出た習洞が中興した。

ヨウホウマンザン オシヨウウロク 鷹峰記山和尚廣錄 加賀大乘寺中興記山和尚の詩文集である。巻首に『住大乘護國禪寺嗣法門人白龍重編』とあり、跋に『丙辰元文仲秋日奉勅前住永平小師比丘白龍拜書于加州大乘之碧巖堂』とある。

ヨウヨウカン 雍々館 ↓セイセイカン 濟々館。

ヨウラクジ 養樂寺 河北郡谷内にあつて、眞宗東派に属する。

ヨウロウ 養老 前田綱紀の時寛文十年八月三日『御領國中に罷在候九十歳以上の男女、今度御吟味之上御扶持被下候儀、助成許之爲にては無之候。老後身度不自由に可罷在

候。子孫孝行加へ置可申候云々。』との令を布いて、領内の庶民九十歳に達する時は、一人扶持を給して、その天壽を全からしめると同時に、子孫をして孝養を盡くすに遺憾ならしめた。これより後毎年正月四日その調査を言上するの例となり、更に享和二年正月・文政九年十二月・天保九年七月にその命を新たにして實行を繼續した。但し初は町在の役人となり、若しくは特別の資格を以て扶持米銀を受ける者の家族には之を給しなかつたが、天保九年七月改めてそれらにも與へることとなつた。又百歳に達した者は、吉徳の時享保十九年四月の達書によつて調査したが、一人も該當者がなかつたといふに初り、治脩の安永五年二月六日にも調査を命じ、尋いで御算用場横目稻垣源太左衛門の小者又市が百四歳となつたのを召し見たことがある。後又齊奏の天保九年七月廿二日の調査命令があり、初めて藩内の百歳に達した者に毎年正月七日貰文を賜ふの例となつた。

ヨカレザエモン よかれ左衛門 ↓ヒニン ガシラ 非人頭。

ヨキイン 與木院 承久三年注進の能登國田數目録鹿島郡に、『与木院、四町四段六、承久元年檢注定』とある。和名抄所載能登郡與木郷の地であらう。

ヨキエキ 撰木驛 能登の古驛。延喜兵部省式には、能登國撰才驛馬五匹と見えるが、才字は木字の誤であり、與岐と訓むべきものである。與木驛は、與木郷と同じく能登郡に屬し、今の鹿島郡大町であらう。

ヨキゴウ 與木郷 能登郡の古郷名。和名抄の一本には與來に作り、孰れも與岐と訓む。

ヨキヒコジンジャ 餘喜比古神社 鹿島郡大町に鎮座する。式内等舊社記に、『餘喜比古神社。式内一座。與木郷大町地内鎮座之處、亂世頃社殿廢絶、社地僅存在。今稱與木之宮。或云大將軍之宮。』とある。

ヨクロウジマ 與九郎島 能美郡山上郷に屬する部落。

ヨクロウジマシ 與九郎島新 能美郡山上郷に屬する部落。田子島新と共に惣稱して出合島といひ、石川郡運上島と入會になつてゐたから、明治廿四年之を石川郡の地籍に移し、凡べて出合島と稱することにした。

ヨゲンイン 頸玄院 加賀藩主第五代前田綱紀の側室三田村氏の法號。詳しくは預立院圓壽妙清日容大禪定尼。

ヨコエ 横江 石川郡横江郷に屬する部落。

ヨコエゴウ 横江郷 石川郡に在つて、藩政時代では南笹塚・市川・野・上安原・中屋森戸・矢木・矢木荒屋・長池・八日市新保・八日市出・御經塚・横江・二日市・野代の十五ヶ村が之に屬する。和名抄にこの郷名が見えず、東大寺要録等によれば庄であつたのを、後に郷にしたものであらう。

ヨコエシヨウ 横江庄 石川郡に在つた。東大寺要録卷六封戸水田章第八に、加賀國横江庄田百八十六町六段二百歩がある。源平盛衰記壽永二年俱梨伽羅合戰の條に、木曾義仲が金劍宮へ林六郎光明の所領横江庄を寄進したとあり、平家物語には白山社へよこ江宮丸二ヶ所の庄を寄進したとして居る。又親元日記文明十四年五月に、天龍寺領加賀國横江庄と見え、陸涼軒日録文明十八年十一月廿七日には『天龍寺領賀州横江庄守護被官人等押

年貢不出』ともある。横江庄は後世の横江郷の地であるが、和名抄に横江の郷名のないのは、當時已に庄であつた爲だらうといはれる。
ヨコエナカシヨウ 横江中庄 石川郡にあつた。貞治六年十二月十三日附澄全の判書に『去進横江中庄散田内田地事、合臺段者云々。』とある。

ヨコエノオミナリトジメ 横江臣成刀自女 寧樂朝の頃に越前加賀郡の人であつた。天性淫佚、濫嫁を事とし、壯夫と戯れてその兒に哺乳しなかつたが、丁齡を盡くさずして死んだ。多年の後紀伊の人寂林法師、加賀郡畝田村に至つて止住した時、寶龜元年十二月廿三日の夜、成刀自女が大和班鳩宮前の叢中に横臥し、その乳から膿血を流して呻吟するを夢見たが、これは生前その兒を飢ゑしめた現報であつた。事は日本靈異記に載せられる。横江は石川郡の地であるから、加賀郡とするのは誤か、若しくはそこへ移住してゐたのと見るべきであらう。

ヨコエトミツ 横江基光 尊卑分脈に林六郎光明の五男横江七郎基光、その子同四郎光利、その子同四郎光茂とある。光明は石川郡林郷を領したから林氏を冒し、基光はそれに近い横江庄を領したから横江氏を冒したのであらう。

ヨコガハ 横川 石川郡富樫庄に屬する部落。龜尾記に、横川に常念坊といふ屋敷跡があつて、今は大乘寺の尼庵となり、俗に横川道場と稱すると記する。

ヨコガハクザエモン 横河九左衛門 横河氏は金澤油木山に邸地を賜はり、世々九左衛門と稱して鎧物師の業に隨うた。法名又は實